HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	義歯へのカンジダ付着に関するリスク因子の検討［全文の要約］
Author(s)	尾崎, 公哉
Description	この博士論文全文の閲覧方法については、以下のサイトをご参照ください。 https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(歯学)
Dissertation Number	甲第13861号
Issue Date	2020-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/78503
Type	doctoral thesis
File Information	Kimiya_Ozaki_summary.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文内容の要約

学位論文題目

義歯へのカンジダ付着に関するリスク因子の検討

博士の専攻分野名称　　博士（歯学）　氏名　尾崎　公哉

義歯は口腔カンジダ症の重要なリスク因子の一つであり、口腔カンジダのリザーバーとなっている。義歯へのカンジダ付着の関連因子が把握できれば、高齢者の義歯管理に役立ち義歯性口内炎の予防を通して誤嚥性肺炎の予防にも寄与すると思われる。そこで第 1 章ではカンジダが新義歯に付着するまでの期間とその関連因子を検討した（北大病院自主臨床研究 014-0054)。対象は当科で口蓋全体を被覆する新製上顎義歯を装着後に、12 か月に亘って定期的に経過観察が可能であった 32 例（男性 11 例、女性 21 例、平均年齢 69 歳）を対象とし、方法は新義歯装着時およびその後 1・3・6・9・12 か月に①義歯粘膜面、②義歯床下粘膜、③口内リンス液の 3 箇所から検体を採取し、クロモアガー培地で培養後、菌種とコロニー数（CFU/ml)を測定し、関連因を統計学的に解析した。関連因子は年齢、性別、既往疾患数、常用薬剤数、安静時唾液分泌量、柿木分類、義歯の既往、下顎義歯の有無、義歯清掃状況、義歯装着時のカンジダ保菌の有無、口腔内一般細菌数とした。

結果は上顎義歯を新製・装着した 32 例中、19 例（59.4%）が、新義歯装着後 1〜9 か月の間に義歯粘膜面からカンジダが検出されたが、このうち 15 例は新義歯装着後 1 か月であった。1 年間に亘ってカンジダが義歯粘膜面から 1 度も検出されなかったのは、13 例(40.6%)であった。これを検体別にみると新製義歯装着時、口蓋粘膜と口内リンス液の両方からカンジダが検出された 14 例中 11 例が、義歯粘膜面からカンジダが検出され、その全てが義歯装着 1 か月後であった。逆に新義歯装着時に両方からカンジダが検出されなかった 8 例中カンジダが検出されたのは 1 例のみで、他は 1 年間に亘り義歯粘膜面からカンジダは検出されなかった。以上より、新義歯装着時、既に口蓋粘膜および口内リンス液の両方からカンジダが検出された群は、両方から検出されなかった群に比べ義歯粘膜面からのカンジダ検出率が有意に多い結果が認められた。また、義歯へのカンジダ付着が安定しなかった 8 例を除き、カンジダ付着群 11 例と非付着群 13 例で関連因子を比較検討したところ、柿木分類による口腔乾燥、義歯清掃状態、新義歯装着時の口蓋粘膜または口内リンス液からのカンジダ検出の 4 項目で有意差を認めた。

第 2 章では新義歯装着以後、介入効果の期待できる、徹底した義歯の清掃管理（就寝前の機械的清掃＋義歯洗浄剤）を義務付けた。対象は当科で口蓋全体を被覆する新製上顎義歯を装着後に、6 か月に亘って定期的に経過観察が可能であった 22 例（男性 8 例、女性 14 例、平均年齢 72 歳)。第 1 章と同様の方法及び関連因子を検討し、経過観察期間は 1・3・6 か月とした。（北大病院自主臨床研究 018-0277）

結果は関連因子に関しては第 1 章と第 2 章ですべての項目で有意差を認めなかった。カンジダが新義歯装着 6 か月間に、義歯粘膜面からカンジダが検出されたのは 22 例中 4 例、18.2%であった。6 か月間のカンジダ検出率を第 1 章の研究の 56.2%（18/32）と比較すると、有意な差を認めた。検体別では、新義歯装着時に、口蓋粘膜および口内リンス液の両方からカンジダが検出されたのは 6 例でそのうち、その後 6 か月間に義歯粘膜面からカンジダが検出されたのは、わずか 1 例（16.7）%であった。逆に両方の検体からカンジダが検出されなかったのは 7 例で、そのすべてが 6 か月間にカンジダは検出されなかった。

新製上顎義歯装着に際し、義歯の清掃管理の介入を行うことで、義歯のカンジダ付着を明らかに抑制することが検証できた。高齢者における新製上顎義歯装着時、並びにその後の定期観察時において、適切な清掃管理指導をおこなうことが義歯性口内炎予防に極めて有効であると思われた。